

# Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学  
長野県塩尻市広丘郷原1780  
☎ (0263) 52-3100  
www.mdu.ac.jp  
1部60円

## 第1000回 歯学部教授会を開催



節目の開催を喜ぶ矢ヶ崎理事長（2列目中央）と本学教授会のメンバー

### 矢ヶ崎理事長が新年迎えて講話 —— 本学の更なる発展に向け抱負を語る ——

1月14日（水）は、本学創立者 矢ヶ崎 康博士の生誕106年を祝うファウンデースデーであった。その翌日、1月15日（木）、記念すべき歯学部第1000回教授会が創立30年記念棟「奥穂高・前穂高」の間に開催され、新年を迎えたこの席で、矢ヶ崎 雅理事長（1期生）は、創立時の血がにじむような苦労について言及し、本学の更なる発展についての抱負を語った。この席で、教授会メンバーには、松本歯科大学の「徽章」が矢ヶ崎理事長からあらためて贈呈された。

左記に矢ヶ崎理事長の講話を要約し紹介します。

創立者・矢ヶ崎 康博士が、かつて させて、すばらしい社会人として巣立こんな話をされたことがあります。「学 たせるような教育ができたとしたら、校というものは入学生ではなく、卒業 それこそが本当の『良い学校』じゃないの質で評価すべきものだ。本来はだ いのかね」。

本学は1972年1月29日に設置認

可され、創立からすでに50年余を経過しました。この2月には第49期生が卒業する予定です。累計で約4千7百人の歯科医師、1400人を超える歯科衛生士、700人の歯科技工士を社会に送り出しています。それぞれが全国各地で活躍し、地域の歯科医師会役員や地方議会の議員などの要職に就いて地域社会のリーダーとして信頼されている人が少なくありません。

本学の教育の基本に据えられ

### 歯科放射線学講座・田口 明教授が歯科医師として初めて講演

#### IOF Regional 第9回アジア太平洋骨健康国際会議

国際骨粗鬆症財団 (International Osteoporosis Foundation: IOF) が主催する 第9回アジア太平洋骨健康国際会議 (IOF Regional 9th Asia-Pacific Bone Health Conference) が昨年12月11日（木）から13日（土）まで、東京都港区の浜松町コンベンションホールで開催された。IOF理事長で

あるニコラス・ハーベイ教授（英国・サザンプトン大学）と、IOF日本代表理事の鈴木敦詞教授（藤田医科大学）が大会長となり、ハイブリッド方式で行われた国際会議で、本学歯科放射線学講座の田口 明教授も歯科医師として初めて講師を務めて講演し、全世界から集まった医療者や研究者の注目を集めた。

（学長 宇田川信之）

### 第4学年 共用試験臨床実習前 OSCE を実施 臨床実習前の 技能・態度・知識を評価

1月24日（土）歯学部第4学年学生45人を対象に、2025年度歯学生共用試験臨床実習前OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験) が公益社団法人・医療系大学間共用試験実施評価機構 (CATO) 派遣監



本書前に行われた受験者への説明会

督者2人、外部評価者12人を迎えて実施された。臨床実習前共用試験は、OSCEとCBTがあり、歯科医師としての資格のない学生が臨床実習において医療行為を行うために事前に学生の能力（態度・技術・知識）と適正を評価するための目的で実施されており、医学系の公的化から1年遅れ



歯科医師として初めて講師を務めた田口教授

in Dentistry: Promoting Early Detection of Osteoporosis and Interprofessional Collaboration (歯科医療におけるA.I.: 骨粗鬆症の早期発見と多職種連携の促進)」という演題で講演した。座長は、東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座の小川純人教授が務めた。田口教授は、長年の研究成果を、最新の知見を交えて分かりやすく解説し、参加者から高い関心が寄せられていた。

IOFは、骨粗鬆症や骨の健康に関して国際的な啓発、研究、教育、支援を行う世界最大級の国際的な非営利組織で、1998年に設立された。本部をスイス・ニヨンに置き、設立以来、世界各国の学会、専門家、患者団体、政策決定者を結びつける国際的なハブとしての役割を果たしている。国際会議は、これまでアジアのさまざまな国で開催されてきたが、日本では初めての開催となった。

この中で田口教授は12月13日（土）のセミナーを担当し、「AIで、歯学系も昨年度から完全に公的化された。歯学系OSCEは、模擬患者とマネキン模型を用いた模擬診療形式で行われ、主に技能、態度を評価される試験である。受験者は、6つの課題を5分間、ごとに場所を変えて行っていく。今回のOSCEは、昨年同様に認定評価者試験に合格した歯科医師や、認定標準模擬患者認定試験に合格した歯科衛生士を含め総勢213人が参画した。試験の課題も公的化に向け、新しい課題が採用・出題され、全国共通の細かな試験室準備ガイドに従って準備を行い、多大な労力が費やされた。担当の教職員が、前日金曜日の午後から病院を休診にして、本館と病院診療室を会場として設営し、試

験実施前点検を行った。試験当日は早朝から準備を行い、無事に試験を実施することができた。試験終了後、翌週の診療に支障の無いよう、反省会や片付けを行った。

受験する学生は、緊張しながらも、懸命にそれぞれの課題に取り組んでいた。試験終了後の合同反省会の際に、機構派遣監督者の小宮山 道先生と野間昇先生より、順調に問題なく試験が実施されていたとの、総評を戴くことができた。2025年度共用試験OSCEの実施において、統括部署である学事室担当者としてスタッフとしてご協力ご参加戴いたすべての職員の皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。

（OSCE小委員会委員長 中村 浩志）  
（歯学部学務課准教授 中村 浩志）



# 私だけが知る 不可解な衆院解散

内閣官房参与  
松本歯科大学理事（特命）  
特命教授  
**飯島 勲**

今月号では『プレジデント』2月13日号「リーダーの掟 飯島勲」より、「私だけが知る 不可解な衆院解散その真相」の記事を要約して紹介します。

読者の皆様は、どのような正月を過ごされたでしょうか。私はといえば、正月は地元の長野へ帰省したもの、兄妹がバタバタと体調を崩してしまっただけのため、病院への付き添いや手術同意書のサインやらで、永田町にいるときよりも慌ただしかった。手術はトラブルなく無事に終わってくれたのが救いだ。

永田町へ帰ってきてからというものの、私が驚いているのは高市早苗内閣に対して、高支持率が継続されていることだ。1月11日に発表されたJNNの世論調査では支持率が78・1%、1

月13日に発表されたNHKの世論調査でも支持率は62%と、ほぼ昨年と変わらない数字をキープしている。

好事魔多しというわけではないが、これだけ支持率が高ければ、新聞の社会部がネタにするような真偽不明のネガティブな報道が流れてもおかしくない。

だが、蓋を開けてみればそんな気配はまったくなく、政治ニュースは政策や外交に関するトピックが多い。

唯一、政策とは直接関係ない話で話題になったのが、昨年末に高市首相が夫の山本拓元衆議

院議員と議員宿舎から首相公邸へ引越したものだ。

高市首相の引越しが報じられた際、夫である山本拓氏が脳梗塞で車いす生活を送っていることから「バリアフリー対応の改修が進められていた」と報じるメディアがあり、一部では「公金を私的使用するのか」という批判もあった。しかし、実際には山本拓氏の入居によるバリアフリー工事は行われておらず、実施されたのは通常の修繕工事だけだったという。まったく馬鹿げた話である。

高市首相は「仮に貴重な税金を使つて改修工事をする必要があるのであれば、私たちは公邸に引っ越しませんでした」と言っているが、私はバリアフリー工事をしたとしてもまったく問題ないと思う。

私がうれしかったのは、このバリアフリー騒動について、高市首相がXで自ら事実関係をしっかりと説明し、無用なハレーシ

ョンや誤解を招かずに鎮火させたことだ。誤った報道をしたメディアを責めることもなく、とても上手に場を取めたと思う。

自分の言葉を意図した通りに伝えるというのは、簡単そうに見えるが、私は非常に難しいことである。しかも今はSNSによって、発言が無軌道に拡散してしまう時代だ。そんな時代においてもうまく言葉を届けられるという

のは、本当に稀有な能力だと思ふ。そして、今話題となっている



「発信力」を駆使して会見する高市首相

のは1月9日からニュースとなっていた衆議院解散についてだ。この件について私を知る限りのことを話そう。

実は、最初に解散について話したのは高市首相ではない。ある官邸スタッフが、メディアとのオフレコの懇談で「近く解散がある」と話したようなのだ。この時点では、高市首相はまったく解散を考えていなかったはずだ。

しかし、記者というのは「今日のことはオフレコで」と言つたとしても、特ダネであれば記事にする生き物だ。当然ながらそれは記事になり、高市首相の目に留まった。その結果、解散ムードは数日でどんどん強まり、現在に至っている。この経緯を考えると、高市首相は解散を検討したことだろうか。スタッフから出た話で首相が動くという、お

かしな状況となっている。私には理解できないが、本当に高市首相が解散に踏み切るのなら、私も特命参与としてできる限りのことをしたいと思う。

報道では1月23日の通常国会で解散が行われるのではないかとこの原稿が載るプレジデント誌の発売日である。23日のニュースがどうなっているのか、今から気になっている。

来月、私は北京で中国の学生が行う日本語の朗読大会へ出席する予定だ。日中関係について緊張したニュースが流れている昨今だが、そんな中でも一生懸命日本語を勉強し、日本のことを理解しようとしてくれる人はい

るのだ。日本にも同じく融和の気持ちを持った人がいるはずだ。そうした人たちの架け橋に少しでもなれたらと思う。私は

昨年で80歳になったが、年齢を言い訳にせず、高市首相のように働いて参りたい。

「痛み」が単なる感覚ではなく、定義も容易ではないことを前にお話ししましたが、この学会では、2020年に「実際の組織損傷もしくは組織損傷が起こり得る状態に付随する、あるいはそれに似た、感覚かつ情動の不快感体験」と定義しています。

組織損傷を防ぐために大切な感覚であることは、沸騰しているヤカンに触れれば瞬間的に手を引つて分かることが明らかで、神経麻痺などで痛覚が鈍っている人は重篤な火傷を負いやすいという事実があります。極端な例では、筆者は、先天性無汗無痛症の子どもが口唇や舌を噛み切ったり、歯を自分で抜いてしまふなど、対応に苦慮させられたこともあり

ところが、わずか2百年ほど前までは、なんと手術の痛みさえも有用なものだと考えていた人がいたのです。昔の外科医たちは、敗血症を防ぐため化膿した四肢の切断といった大手術をこぎりで、わずか数分間で手足

を切り落とす「名医」が活躍していたのですが、その際の痛みは意識を保つために必要で、その刺激がなければ死んでしまうと考えていました。

それどころか、半世紀の歯科保存学の教科書にも、生活歯の切削に際しては「偶発的な露髄を防ぐために痛覚は残しておくべきだ」として、局所麻酔は避けるべきだとの記載があります。これでは、歯科治療は痛い」と恐れられたも当然ですが、当時の医者、歯医者の方々は「病気を治すのだから多少の苦痛は我慢するのが当たり前だ」と威張っていたものでした。

近代麻酔の扉を開いたアメリカ東部のハートフォート市の開業歯科医ホーレス・ウェルズ先生は、患者の苦痛を無視しない、この時代には稀なやさしい歯医者さんだったのだでしょう。彼の同僚のモートンやイギリスの産科医シン普森などの努力によって、手術の無痛化が成し遂げられていきました。

それでもまだ、お産の苦痛を除くことには猛烈な反対が巻き起こったのです。エデンの園で原罪を犯したイヴが「汝は大いに苦しみて子を産むべし」と命じられているのに、その子孫である女性に怪しげな薬を吸わせてそれを無痛化するのは「神を恐れざる悪魔の所業だ」というわけ

外科的処置や手術は適切な麻酔下で行うことが常識となり、分婉も欧米では6〜9割（日本ではまだ10数%ですが急速に増えています）が硬膜外麻酔などで無痛化されている現代からは、とても考えられませぬ。

医学医療がまだ発展していなかった時代に生まれなかったことを喜ぶべきでしょう。

## 専修生研修修了式 中国河北省の呂医師 6カ月間の研修修了 ～研修経験を臨床領域でさらに昇華させていきたい～



右から矢ヶ崎主事、宇田川学長、大須賀教授、呂医師、蘇助手

中国河北省の河北医科大学口腔

腔医院より派遣され、半年間の研修を終えた呂炳建医師の修了式が1月8日（木）、学長室で行われた。

式には矢ヶ崎中央法人主事、宇田川信之学長、指導教員の大須賀直人教授（小児歯科学講座）、研修をサポートした蘇

文恵助手が参加した。冒頭の挨拶で矢ヶ崎法人主事はねぎらいの言葉を贈り、現在日中両国の政治面では微妙な問題を抱えているが、松本歯科大学は創立者矢ヶ崎康先生の時代から中国との友好協力関係を堅持してきたとし、「本学の友好の情熱と学んだ知識を是非母

国に持ち帰っていただき、今後医療分野で活躍してください」と祈念した。

今回の研修成果について問われた呂医師は、「美しいキャンパスと素晴らしい環境の中で研修ができ大変充実した6カ月でした。確かに昨年11月からは政治面で微妙な時期となり、本国の家族や同僚から研修継続を心配する声が届いたが、メディアで伝えられる事柄と事実は全く異なり、こちらの状況を伝えると皆驚いていた。また、指導教員である大須賀教授の熱心なご指導と日本国民の皆さんの優しい気持ちに触れ、情報の大切さと真実の判断が非常に大切であると実感した」と話した。

続いて宇田川学長が「本学は毎年河北医科大学口腔医院へ第5学年の学生を派遣しており、これまで呂医師をはじめ多くの諸先生方から懇切丁寧なご指導

と熱烈歓迎を賜ってきた。今後派遣交流は継続していくので引き続き宜しくお願いします」と感謝を述べ、修了証書を授与した。

今回、中国政府の公費留学生として派遣されていた呂医師は、河北医科大学口腔医院で口腔病の専門医として活躍されており、本学での研修経験を今後の臨床領域でさらに昇華させていきたいと抱負を述べていた。

### 第3学年の隣接医学（耳鼻咽喉科）有賀あや子先生が講義

### 学生が幅広く理解できるよう丁寧に指導

第3学年の授業科目「隣接医学（耳鼻咽喉科学）」は本年度から、塩尻市ご出身の耳鼻咽喉科専門医である有賀あや子非常勤講師（ひまわりクリニック院長）が担当している。歯科領域と密接な関係にある耳鼻咽喉科領域について、学生が、器官の構造や機能、病気の診断や治療の基礎知識に至るまで幅広く理解できるよう丁寧に指導している。

授業は昨年11月が初回で、基本的な耳の機能や疾患を理解するところから始まった。鼻・副鼻腔の構造を理解した上で、口腔などとの関係を説明できるところに到達目標を置いた授業では、より具体的なイメージを持つて理解が深められるよう工夫した授業が行われた。頭頸部の基本構造や疾患などをテーマにした授業では、映像も用いて解説し、学生がより理解しやすく



講義する有賀先生

なるようサポートした。

耳鼻咽喉科学は、歯科の中でも特に歯科口腔外科学と密接に関係した解剖学的にも機能的にも重なる部分が多く、それぞれの領域の疾患は双方の器官に影響を及ぼすこともある。そこで、耳鼻咽喉科学を歯科口腔領域の隣接臓器・器官として把握し、解剖や生理を理解して、疾患の診断治療に関する基礎知識を習得することは一層重要になっている。学生たちは1月の最終回までの全5回の授業を、他の科目と同様に、自分の言葉で説明できるレベルの高い習熟を目指して、熱心に受講していた。

### 創立者の「視点」



大学誌編集主幹  
特任教授

**笠原 浩**

我々が国でも、さまざまな組織が痛みやその対応について研究を続けています。代表的なのは、1973年に山村秀夫ら麻酔科学の研究者が中心となって結成した「痛みの問題研究会」で、84年に「日本疼痛学会」と名称を変更して、国際疼痛学会（IASP）の日本支部となっています。毎年の学術大会には歯科医療関係者の参加も少なくはないようです。

「痛み」が単なる感覚ではなく、定義も容易ではないことを前にお話ししましたが、この学会では、2020年に「実際の組織損傷もしくは組織損傷が起こり得る状態に付随する、あるいはそれに似た、感覚かつ情動の不快感体験」と定義しています。

組織損傷を防ぐために大切な感覚であることは、沸騰しているヤカンに触れれば瞬間的に手を引つて分かることが明らかで、神経麻痺などで痛覚が鈍っている人は重篤な火傷を負いやすいという事実があります。極端な例では、筆者は、先天性無汗無痛症の子どもが口唇や舌を噛み切ったり、歯を自分で抜いてしまふなど、対応に苦慮させられたこともあり

ところが、わずか2百年ほど前までは、なんと手術の痛みさえも有用なものだと考えていた人がいたのです。昔の外科医たちは、敗血症を防ぐため化膿した四肢の切断といった大手術をこぎりで、わずか数分間で手足

を切り落とす「名医」が活躍していたのですが、その際の痛みは意識を保つために必要で、その刺激がなければ死んでしまうと考えていました。

それどころか、半世紀の歯科保存学の教科書にも、生活歯の切削に際しては「偶発的な露髄を防ぐために痛覚は残しておくべきだ」として、局所麻酔は避けるべきだとの記載があります。これでは、歯科治療は痛い」と恐れられたも当然ですが、当時の医者、歯医者の方々は「病気を治すのだから多少の苦痛は我慢するのが当たり前だ」と威張っていたものでした。

近代麻酔の扉を開いたアメリカ東部のハートフォート市の開業歯科医ホーレス・ウェルズ先生は、患者の苦痛を無視しない、この時代には稀なやさしい歯医者さんだったのだでしょう。彼の同僚のモートンやイギリスの産科医シン普森などの努力によって、手術の無痛化が成し遂げられていきました。

それでもまだ、お産の苦痛を除くことには猛烈な反対が巻き起こったのです。エデンの園で原罪を犯したイヴが「汝は大いに苦しみて子を産むべし」と命じられているのに、その子孫である女性に怪しげな薬を吸わせてそれを無痛化するのは「神を恐れざる悪魔の所業だ」というわけ

外科的処置や手術は適切な麻酔下で行うことが常識となり、分婉も欧米では6〜9割（日本ではまだ10数%ですが急速に増えています）が硬膜外麻酔などで無痛化されている現代からは、とても考えられませぬ。

医学医療がまだ発展していなかった時代に生まれなかったことを喜ぶべきでしょう。

医学医療がまだ発展していなかった時代に生まれなかったことを喜ぶべきでしょう。

### 痛みと歯科医療④



病院だより vol.72

## 二條皮ふ科クリニック 高周波エコー検査

現在当院で行っている高周波エコー検査について紹介します。皆さんはエコー検査といえば腹部のエコー検査、心臓のエコー検査、産科でのエコー検査などを思い浮かべられると思います。エコー検査とはプローブから超音波を発し、その反射音を感じ

知して、体の深部の状態を画像化するのですが、この超音波の周波数によって見られる深さが変わってきます。皮膚科で用いられるエコーは、高周波（7・5MHz以上）を使用し、体の浅い部位に特化しています。特に20MHz以上のプローブでは、皮膚・皮下の深さ1cm程の変化を画像化し100分の1mm単位で距離の測定が可能です。当院で現在使用している機器はGE社の「LOGIQ e Premium」という機種で、12MHz、18MHz、22MHzの3つのプローブがあり、ドップラー法による血流の変化を見ることができ、さまざまな皮膚疾患に対応することができます。エコー検査の利点は、小さな装置で、簡便で、侵襲がなく、リアルタイムで画像が得られる



当クリニックで使用している高周波エコー検査装置

ことであり、クリニックの外來診療において大変有用となっています。皮膚科で高周波エコーを導入している施設は県内ではまだわずかですが、当院ではより精密な検査が可能となっています。皮膚科でエコー検査の対象となる疾患は、腫瘍性疾患、血管性病変、皮下異物、爪病変、関

節病変など多岐にわたりますが、最もよく用いられるものは、皮膚の腫瘍（しこり）の鑑別です。腫瘍性の病変では、まず触診を行い、大きさ、硬さ、深さ、痛みの有無などである程度の診断は可能ですが、エコー検査を行うことにより内部の状態、辺縁の状態、深さや周囲の状態、またドップラーを用いて血流を見ることで内部に血流があるかどうかや周囲に炎症を伴っているかどうかなどより正確で詳しい情報が得られます。

多くの腫瘍性病変は手術による治療が検討されますが、正確な情報を得ることで、より確実な手術が可能となります。二條皮ふ科クリニック院長 林 宏二

第3回医療安全講習会を1月26日（月）、本館601教室で開催し、アナフィラキシーへの対応につき筆者が解説した。アナフィラキシーとは、何らかのアレルゲンにより全身性にアレルギー症状が惹起され、生命に危険を与える過敏反応である。誘因としては食物が最も多

いが、医薬品やハチ刺傷では死亡率が高い。あらゆる医薬品が誘因となる可能性があり、過去に複数回安全に使用できたものでも発症することがある。医療

に院内をラウンドし、環境整備、廃棄物処理や経路別予防策などに

アナフィラキシーへの対応を説明する筆者

（医療安全委員会委員 渡谷 徹）

につきチェックを行っている。今回は保存科、地域連携歯科ならびに補綴科におけるICITラウンド結果につき、各診療科の院内感染防止対策委員の中村卓先生、山上裕介先生、笠原隼男先生から、ICITから指摘された不備な点や改善策につき報告が行われた。パソコン周囲などのほこり、ゴミ箱に8割以上のゴミが廃棄されているなどを指摘されたところが多かった。今後とも清潔な環境整備や感染防護対策の徹底に努めていきたい。

## 第1学年オープンセミナーⅡ発表会 グループ単位で多彩なテーマを考察し分担してプレゼン



皆の前に立ち学んだことを発表するグループ

この日は全9グループのうち、5グループが登壇した。「歯科医師となるためのプロフェッショナル」は1月6日（火）、学生が学んだことを踏まえて考察し、教員や他の学生を前に端的に表現する「発表会」を行った。学生たちはキャンパスイン101教室に集まり、学んできたテーマに沿ってグループごと、メンバーを次々入れ替え、全員で分担して発表していった。

ナリズム」をテーマに学んできたグループは、プロフェッショナルリズムとは何かに始まり、一般的な開業の手順や課題、チーム医療と地域医療との連携などを簡潔にまとめて発表したほか、

### 本格的な入試シーズンの幕開け

### 大学入学共通テスト本学会場で274人が受験

本格的な入試シーズンの幕開けとなる2026年度の大学入学共通テストが1月17日（土）、18日（日）の2日間、全国一斉に行われた。出願手続きはこれまで郵送のやりとりが中心だったが、今回からオンライン化された。開場時刻の午前7時30分を過ぎると、受験生たちは、家族の車で送られたり、友達とタクシーに乗り合わせたりして集まり始めた。講義館に近い場所には、受験生が通う高校の教員たちが

生たちは講義館に設けた8つの試験室に分かれて、これまでの学びの成果を発揮して全力でテストに臨んだ。

専門性を社会に還元できる働き方として、歯科保健政策を考える行政職も選択肢となることも提示した。また、歯科医師国家資格取得から50年先を見据え、技術や知識の習熟度や社会情勢に照らしながら柔軟なキャリア形成を展望する一幕もあった。「特許」を取りうる」をテーマに学んだグループは、知的財産の分類やそれぞれの特色を整理して示し、本学教員の実績を例



本学試験場の講義館に向かう受験生

に「特許と聞くと製造業をイメージする人が多いかもしれないが、歯科医師も特許に関わることもある」などと述べ、歯科医師の仕事の領域へ学生たちの関心を喚起した。進行役を務めた統括の中村浩彰歯学部長は、「学生はよく調べて、分かりやすくパワーポイントにまとめており、『情報リテラシー』の授業が役に立っている」と、講評した。

共通テスト1日目は地理歴史・公民、国語、外国語（筆記、英語のみリスニング）、2日目に理科、数学①、数学②、情報が行われた。2日間とも天候に恵まれ、交通機関などの乱れの影響を受けることなく、運営も試験開始の遅れや問題冊子の配布ミスなどのトラブルなく、予定通り円滑に行われた。

## フレンチレストラン雷鳥 渡辺シェフ特製 信州野沢菜漬けを無料提供



野沢菜漬けを取り出す渡辺シェフ

早朝から待機していて、自校の生徒を見つけると、「落ち着いてやれば大丈夫だぞ」「実力を発揮すればいい」などと一人ひとりに声をかけ、健闘を祈り励ましていた。

雷鳥はこの冬から、食事を注文した人に、信州の冬を代表する漬物「野沢菜漬け」の無料サービスを開始した。渡辺孝貴シェフとスタッフのお手製で、レストランとしては意外な地域に伝わる「和の逸品」のサービスが、利用する人たちに好評だ。渡辺シェフは、レストランで提供している特別栽培米をさらにおいしく食べてもらう方法はないかと考える中で、野沢菜を無料提供するアイデアが浮かんだという。野沢菜を本格的に漬けた経験はなかったが、農産物のこだわりの栽培で知られる岡谷市の五味農園から質の高い野沢菜を仕入れ、スタッフの家庭で受け継がれる伝統的な漬け方を参考に、たまりじょうゆを

### 安心・安全で確かな医療を提供するために

### 2025年度第3回医療安全講習会

面接でアレルギー歴を詳細に聞き取っていたとしても、アナフィラキシーの発症予測は容易ではない。したがって、万一反アナフィラキシーが発症した際に素早い診断と適切な対応ができるよう、日頃から備えておくことが重要である。医療事故防止対策マニュアルやポケット版にもアナフィラキシーに関する記載があるので参照していただきたい。



院内感染防止対策委員会では、ICIT（インフェクションコントロールチーム）が定期的



## 中学生との交流からキャリア形成について考える

### 塩尻市立丘中学校「いきはたトーク」

塩尻市立丘中学校で昨年11月20日(木)、「いきはたトーク」が行われ、本学病院の大池 蘭 病棟看護師と参加した。

親や教師などの「縦の関係」、同級生との「横の関係」以外に、地域社会の大人たちという「斜めの関係」と交流することで、中学生が進路選択を考えるきっかけとなるだけでなく、社会人側にもキャリア形成について考



思いを打ち明ける生徒に寄り添う筆者(右)

える機会の提供を目指す事業で、われわれもたくさんの方の学ぶ時間となった。

塩尻市を拠点に地域共創事業に取り組むNPO法人「MEGURU」が事務局を務める共創共学プラットフォーム事業の一環として行われた。

3人の中学生が社会人、大学生、高校生といった「先輩」の一人と組になり、「先輩」が事前講習で作成したこれまでの人生を感情の起伏でグラフにした「人生グラフ」を見せた後に1対1で18分間、中学生の作った人生グラフをもとに、現在や将来の悩みといった相談などを聞き、対話した。

3人は、初対面にもかかわらず悩みを話してくれ、こちらの61人となった。

藤森恒美担当理事(10期生)の司会により、在学生から出身地域の紹介や近況が報告され、同郷の先輩後輩同士、和気あいあいと情報交換を行っていた。

山田和昭支部長(6期生)、有賀 功顧問(3期生)、渡邊 栄一先生(6期生)、山崎一郎先生(12期生)、滝 克尚先生(12期生)、小嶋 勤先生(15期生)、松山英基先生(16期生)、堀 忠士先生(17期生)、土屋 俊英先生(18期生)、桐原孝尚先生(22期生)、中澤高志先生(32期生) から温かいエールの言葉が述べられ、プレゼントが贈られた。

大学側からは、宇田川信之学長から挨拶があり、最後に記念撮影を行い、再会を誓った。

近年、長野県出身の新入生は増加していて、今年度は昨年度から8人増え、対象者は全体で

## Alumni News

松本歯科大学校友会

### 長野県支部 在学生 30人が参加し 先輩後輩同士、和気あいあいと情報交換 長野県出身在学生との交流会

校友会長野県支部主催による「長野県出身在学生との交流会」が昨年12月6日(土)、本学中国料理レストラン「スターダスト」にて開催された。

今回は、14人の歯学部新入生の参加を含む在学生30人と、臨床研修歯科医師2人および教員4人、長野県支部役員11人の合



前列中央の宇田川学長を囲み長野県支部役員らと後列長野県出身の在学生の皆さん

計47人が参加する盛大な交流会となった。

山田支部長はじめ校友会長野県支部の先生方に厚く御礼申し上げます。

今後の生き方を考える助けになったのではないかと全体を振り返っておられた。

筆者は昨年に続き2年連続での参加だったが、今後も参加するチャンスがあれば参加したいと感じた。

（薬理学講座 講師 喜多村洋幸）

「OPGによる骨免疫・血管制御」「骨・免疫学から、神経骨免疫学へ」

第438回・第439回大学院セミナーが1月7日(水)に開催された。講師は、昭和医科大学歯学部口腔生体講座・塚崎雅之教授と東京大学大学院医学系研究科免疫学・高柳 広教授がそれぞれ担当された。

塚崎先生は、「OPGによる骨・免疫・血管制御」というタイトルで最新の研究成果を分かりやすく丁寧な講義された。

このOPGが骨だけでなく動脈硬化の原因となる血管平滑筋にも発現し、平滑筋の石灰化を抑制させる作用をもつことを示された。

高柳教授は、「骨免疫学から、神経骨免疫学へ」というタイトルの司会により、在学生から出身地域の紹介や近況が報告され、同郷の先輩後輩同士、和気あいあいと情報交換を行っていた。

まず、免疫学の初歩的な講義として、胸腺内で自分自身と反応してしまったT細胞を殺してしまうネガティブセレクションについて説明され、胸腺上皮細胞(ETEC)とT細胞前駆細胞の相互作用について説明された。

実際、OPG欠損マウスでは自己反応性T細胞の数は少ない。つまり、OPGがETEC数や自己反応性T細胞の除去を調節している。

骨と神経と免疫の連関については、自己免疫性脳脊髄炎を発症させると、T細胞の中でも「CD4+産生性ヘルパーT細胞サブセット・TH17細胞が特にRANKLを高く発現していることを発見されたことから、T細胞を特異的にRANKLを欠損させたマウスに自己免疫性脳脊髄炎EAEを誘導すると、発症率および病態の進行が強力に抑えられることを発見された。

リンパ節および脾臓におけるTH17細胞分化は正常に誘導されるものの、中枢神経組織内へのTH17細胞及びマクロファージ等の炎症性細胞の浸潤が抑制されており、中枢神経組織の炎症と髄鞘破壊が強く抑えられていることを示された。

神経細胞で発現するSema3a遺伝子を神経系で欠損させたマウス、骨芽細胞を特異的に欠損させたマウスでそれぞれ解析すると、神経細胞由来ではなく成熟後期の骨芽細胞が産生するSema3aが骨形成に重要であることを示された。

このように骨と免疫、神経と骨、神経と免疫学が相互に関連して我々の身体は調節されていることがよく分かるセミナーであった。多くの大学院生やスタッフも出席し活発な議論がなされた。今後の研究活動に生かしていきたい。

（総合歯科学研究所 硬組織免疫制御研究室 講師 石田昌義）

（硬組織免疫制御研究室 講師 石田昌義）

（硬組織免疫制御研究室 講師 石田昌義）

（硬組織免疫制御研究室 講師 石田昌義）

（硬組織免疫制御研究室 講師 石田昌義）

## 蒼穹会が応援 がんばれ第6学年生!

目前に迫った第119回歯科大学国家試験に向け、年末年始も勉強に励む第6学年生を応援しようと、蒼穹会は12月29日(月)から1月2日(金)まで、学生食堂や中国料理レストラン「スターダスト」で昼食の無料提供を行った。多くの学生が集まり、リラックスした表情で食事を楽しんでいた。

メニューは、年末はハンバーグやステーキ、年越しそばなど多彩で、新年はおせち料理の定番から黒豆、だし巻きなども振る舞われた。また、矢ヶ崎 雅理事長からの差し入れとして、みかん、バナナ、リンゴのセットも全員に配布された。宇田川信之学長は「国家試験に向けて規則正しい生活を維持するため、年末年始も大学校舎で越冬し、追い込みをかけてほしい」と話していた。

国家試験は1月31日(土)と2月1日(日)に行われ、合格は3月16日(月)に厚生労働省のWebサイトで発表される。



スターダストで食事を楽しむ第6学年生

## 人事異動

〔定年退職〕 12月25日付

山辺 正樹 (事務局管理課副委員長)

〔採用〕 12月26日付

山辺 正樹 (事務局管理課 契約職員)

中村 光孝 (実務費係 パートタイマー)

## 2月行事予定

2日(月)・3日(火)

一般選抜(Ⅰ期)

共通テスト利用選抜(Ⅰ期)

留学生選抜(Ⅰ期)

3日(火)

進級試験(第5学年)

4日(水)

CBT本試験(第4学年)

5日(木)

歯学部・大学院卒業証書授与式・学位記授与式

7日(土)

合格者発表

一般選抜(Ⅰ期)

共通テスト利用選抜(Ⅰ期)

9日(月)

留学生選抜(Ⅰ期)

国家試験過去問試験(第2回・第5学年)

受験生の皆さんへ  
※総合型選抜(Ⅱ期)  
※一般選抜(Ⅱ期)  
※共通テスト利用選抜(Ⅱ期)  
※編入学選抜(Ⅱ期)

●試験日 2月24日(火)  
※総合型選抜・編入学選抜の試験場は本学です。  
※共通テスト利用選抜は、個別試験はありません。  
●出願期間 2月2日(月)～2月18日(水)  
●試験場 本学・東京・大阪  
■お問い合わせ■  
HOT LINE 0263-54-3210  
松本歯科大学 入試広報係  
www.mdu.ac.jp

## Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



X



Instagram



facebook

